

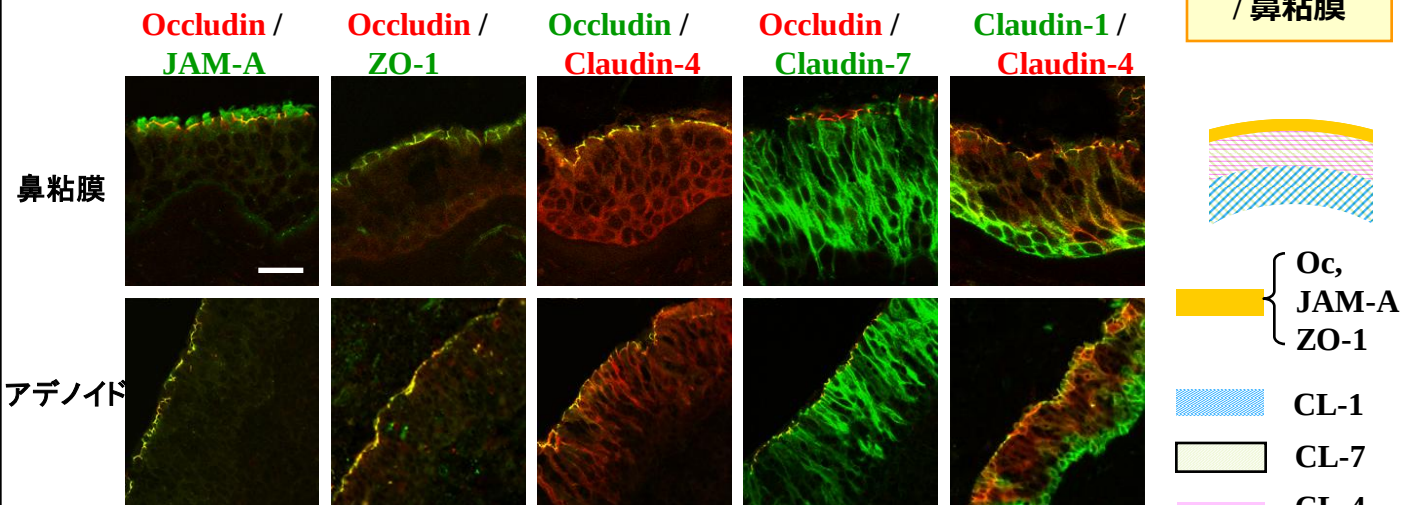
アレルギー性鼻炎における鼻粘膜上皮バリアと抗原認識・提示機構の解明

(耳鼻咽喉科学講座 郷 充, 高野賢一, 亀倉隆太, 氷見徹夫)

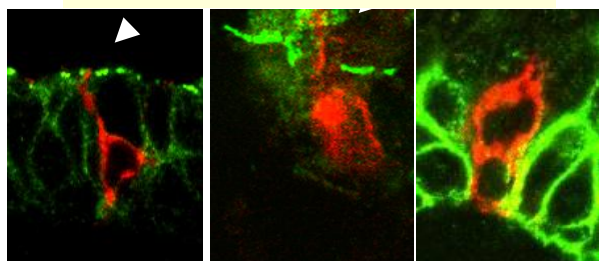
鼻咽喉腔は、外来病原体に対する生体防御の最前線に位置し、自然免疫、獲得免疫において重要な役割を担っている。我々は、ヒト鼻粘膜や扁桃、アデノイド(咽頭扁桃)上皮細胞を用いて、様々な面から上皮のバリア機能およびその鍵となるタイト結合の発現調節機構を研究している。特にアレルギー性鼻炎においては、上皮最表層でのタイト結合蛋白の発現のみならず、抗原提示細胞であるCD11c陽性樹状細胞にもタイト結合蛋白の発現をみとめ、上皮バリアを壊さずに突起を伸ばし抗原を取り込む機構が存在することを示した。現在、初代培養鼻粘膜細胞および継代培養可能なhTERT導入培養鼻粘膜細胞を用い、TGFβやTSLPなどのサイトカインに対するタイト結合発現調節機構研究も行なっている。

鼻粘膜・アデノイドでのタイト結合蛋白の分布

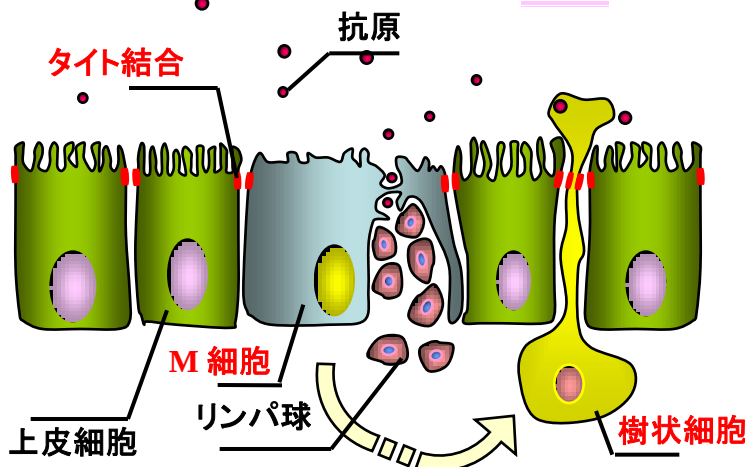
アデノイド / 鼻粘膜



アレルギー性鼻炎 鼻粘膜上皮



CD11c陽性樹状細胞が突起を伸張し、タイト結合分子を発現し、バリアを保ちながら抗原を取り込む機構が存在する



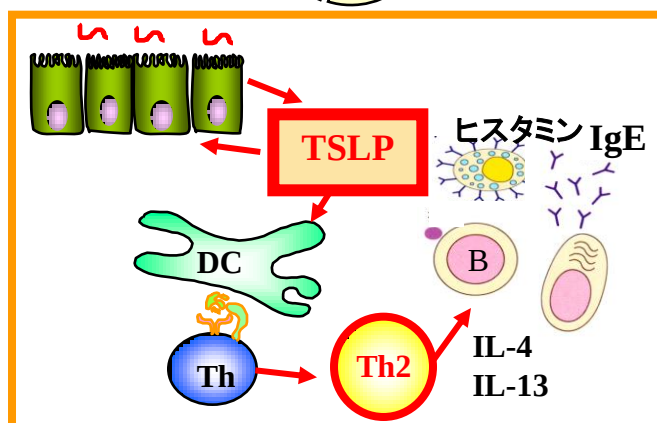
ヒト鼻粘膜におけるTSLPの発現

アレルギー性鼻炎 正常鼻粘膜

1 2 3 1 2 3

RT-PCR -231bp

WB -32.7 kd



連絡先: 氷見徹夫 (himi@sapmed.ac.jp)